



平成 22 年 3 月期 第 1 四半期 マイルストーン開示
(当社事業計画の進捗状況等について)

平成 21 年 7 月 31 日

上場会社名 株式会社ユビキタス

(コード番号: 3858 NEO)

(URL <http://www.ubiquitous.co.jp/>)

問合せ先 代表取締役社長・川内雅彦
取締役最高財務責任者・家高朋之

TEL: (03) 5908-3451

平成 21 年 5 月 22 日発表のマイルストーン開示に係る事業計画の第 1 四半期末時点における進捗状況について、以下のとおりお知らせします。

1. 第 1 四半期末時点における今期事業計画の達成状況

[今期事業計画の達成状況]

・通期業績予想と実績の比較表 (百万円)

区 分	通期業績予想	実績	達成率 (%)
売上高	980	198	20.3
営業利益	260	44	17.0
経常利益	270	47	17.6
当期純利益	140	27	19.9

・形態別売上高の予想と実績 (百万円)

区 分	通期業績予想	実績	達成率 (%)
使用許諾	870	159	18.4
サポート	60	25	41.8
受託開発	50	14	28.0
合 計	980	198	20.3

なお、分野別売上高については、顧客企業との守秘義務の関係で、顧客数及びプロジェクト数の少ない四半期においては開示を差し控えております。そういった障害がなくなった時点で分野別売上高を開示する予定ですが、第 4 四半期終了後には通期のマイルストーン開示にて開示する予定です。

(季節性について)

当社事業の特徴として、ゲーム分野の比重が高いために業績に季節性が存在します。通常、第 1 四半期は、売上高が少なく、第 3 四半期の年末商戦に向けて漸増する傾向があります。但し、大型ゲームソフトの発売時期によって季節のピークは変動する場合があります。また、受託開発については、顧客であるメーカー各社の予算サイクルに従っているため、上期末である第 2 四半期及び下期末である第 4 四半期に売上高が集中する傾向があります。

[今期事業計画の達成状況に関する定性的情報等]

(1) 総括

通常第 1 四半期は低めの進捗率となる傾向がありますが、当第 1 四半期につきましては通期業績予想に対して売上高で 20.3%、純利益で 19.9%とまずまずのスタートとなりました。売上高の形態別内訳ですが、サポートが当初の見込みに比べて順調に推移している他はおおむね当初見込

みの通り推移しております。

(2) 第1四半期末時点における研究開発及び事業開発の進捗状況について

① ネットワークの高速化

当第1四半期において、国内大手メーカーより携帯端末向けの TCP/IP 高速化に関する評価試作を受注、納品しました。

② AV 機器のネットワーク対応

本テーマにつきましては、引き続きセットトップボックス*関連のプロジェクトを中心に取り組んでおります。また、デジタル・コンテンツをネットワーク環境で活用する際に必須の DTCP-IP 規格対応ミドルウェアを携帯端末向けプラットフォームに移植し、ESEC2009 にて展示しました。

*セットトップボックスとは、デジタル放送の受信機能に加え、テレビを利用したインターネットの利用など、一般家庭向け統合サービス端末としての機能を持つ機器のこと。

③ ワイヤレス・ネットワーク

UbiquitousAIR NOE の改良を続けつつ、農林水産省の「官民連携新技術研究開発事業」に認定された農地モニタリング・システムの共同開発を推進しました。当該事業では、愛知と孺恋の農地に当社製作の無線センサーを設置し、試験運用を開始しました。

④ ネットワーク対応ゲーム

ゲーム分野においては、ニンテンドーDS 向け Wi-Fi 対応ゲームソフトウェアからのロイヤルティ収入が当第1四半期も堅調に推移しました。また、ニンテンドーDS i にも当社製通信ソフトウェアをご採用いただいております。

⑤ 組込みデータベース

組込みデータベース分野は、前第4四半期に集中的に成約があった反動で遅めの立ち上がりとなりましたが、引き合いは順調です。また、製品取得後に取り組んでまいりました開発が一区切り付き、当社として初のバージョンアップ版 Ubiquitous DeviceSQL Release 4.1 を5月にリリースしました。データベース機能として重要な検索・ソート等の基本性能の向上をはかっている他、サポートされているアプリケーションから任意のタイミングでデータベースファイルをオープンできる機能を追加するなどの改良を行いました。

⑥ 当社ソフトウェアの強化や周辺アプリケーション拡充のための資本提携等

当第1四半期中には新たな資本提携は締結しておりませんが、継続的に当社ソフトウェアの強化、周辺アプリケーションの拡充、また、事業拡大につながる協業を模索しており、案件の検索、評価を継続して実施しております。

(3) 計画達成のための前提条件について

① 研究開発計画達成のための前提条件

当初の計画通り、エンジニア 20 名の体制から変更ありません。

② 研究開発成果に対する評価・判断のポイント

平成 22 年 3 月期中に 3 件の新製品リリースを行う計画でしたが、当第 1 四半期中に株式会社ルネサス テクノロジ製の Ethernet コントローラ内蔵 16bit マイコン H8S/2472, 2463, 2462 グループ向けの UbiquitousTCP/IP ソフトウェア開発キット、及び組込データベース製品 Ubiquitous DeviceSQL Release 4.1 の 2 件の新製品をリリースしました。

③ 研究開発計画達成に重要な影響のあるライセンス契約など

当第 1 四半期において新規のライセンス契約締結はありません。

[業績目標に関する定性的情報等]

昨年のいわゆるリーマンショック以来、金融危機と景気後退は深刻化しており、当社主要顧客である半導体メーカーや電機メーカーは厳しい経営環境に置かれています。これら顧客企業と予定しているプロジェクトが延期または中止になった場合には、当社業績に影響が出る可能性があります。

また、当社が挑むユビキタス・ネットワーク市場は、未だ形成の初期にあり、その成長に予測困難性が伴います。当社は、現出しつつあるこの市場で他社に先駆けて優れた技術や製品を投入し、先行してシェアを獲得する考えですが、市場の形成そのものに不確実性が伴うことは避けられません。

一方、携帯ゲーム分野への依存度が高いこともリスク要因です。当社は、携帯ゲーム以外の事業を早急に立ち上げるべく努力しておりますが、携帯ゲーム分野への依存度が高いまま当該事業が不調になると会社業績に大きな影響を与えます。

上記のような様々なリスクが存在しますが、現時点では平成 21 年 5 月 22 日発表の当期事業計画については達成可能と考えております。

【参考資料】

「平成 22 年 3 月期～平成 24 年 3 月期 マイルストーン開示に係る事業計画について」は、平成 21 年 5 月 22 日開示の文書をご参照下さい。

以 上

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。